

令和2年度病害虫発生予察情報・注意報第1号
(カメムシ類による斑点米の多発生に注意)

令和2年6月30日
新潟県病害虫防除所

病害虫名 斑点米カメムシ類

- 1 対象作物 水稻
- 2 発生地域 県内全域
- 3 発生程度 多い
- 4 注意報の根拠

- (1) アカスジカスミカメの6月下旬の畦畔すくい取り調査における確認地点率(表1)は平年並だが、**確認虫数(表2)は平年に比べ多い。確認虫数は過去10年で最も多い。**
- (2) アカヒゲホソミドリカスミカメの6月下旬の畦畔すくい取り調査における確認地点率、虫数は、平年並。
- (3) オオトゲシラホシカメムシの6月下旬の畦畔すくい取り調査における確認地点率は平年並、虫数は平年に比べやや少ない。
- (4) 近年の斑点米の主要加害種はアカヒゲホソミドリカスミカメ、アカスジカスミカメであり、カスミカメムシ類2種の虫数と斑点米の発生には相関が認められる。過去10年中7年で斑点米の発生が多く(1.5%以上)、カメムシの虫数が平年並でも斑点米が多発生する可能性が高いので注意が必要(図)。
- (5) 向こう1か月の気温は平年に比べ高いと予想されており、斑点米カメムシ類の増殖や水田侵入後の加害活動が活発になると推測される。

表1 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り確認地点率(6月下旬調査、単位：%)

種類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカスミカメ	本年	21.4	38.5	50.0	38.5	66.7	22.2	40.0
	(前年)	(50.0)	(38.5)	(28.6)	(15.4)	(16.7)	(77.8)	(36.0)
	平年	30.1	27.6	43.7	47.9	26.7	39.5	36.0
	平年比	並	並	並	並	高	やや低	並
アカヒゲホソミドリカスミカメ	本年	14.3	46.2	35.7	53.8	50.0	0.0	34.7
	(前年)	(64.3)	(69.2)	(35.7)	(23.1)	(8.3)	(11.1)	(37.3)
	平年	40.2	44.0	43.3	32.6	22.5	7.8	34.1
	平年比	やや低	並	並	やや高	やや高	やや低	並
オオトゲシラホシカメムシ	本年	0.0	7.7	28.6	15.4	25.0	0.0	13.5
	(前年)	(0.0)	(7.7)	(7.1)	(0.0)	(16.7)	(0.0)	(5.3)
	平年	7.9	11.1	18.6	22.4	21.7	2.2	14.4
	平年比	やや低	並	やや高	並	並	並	並

※病害虫防除所巡回調査ほ場(75地点)、令和2年度調査期間：6月18～24日

表2 斑点米カメムシ類の畦畔すくい取り虫数（6月下旬調査、単位：頭／20回振り）

種類	年次	下越	新潟	中越	魚沼	上越	佐渡	県全体
アカスジカスミカメ	本年	1.1	1.1	13.4	25.7	37.3	2.3	11.5
	(前年)	(14.5)	(0.6)	(3.6)	(1.3)	(0.3)	(7.3)	(4.4)
	平年	4.0	1.6	10.5	9.0	1.9	2.8	5.1
	平年比	やや少	並	並	多	多	並	多
アカヒゲホソミドリカスミカメ	本年	5.3	3.5	0.7	4.2	3.1	0.0	3.1
	(前年)	(6.2)	(5.0)	(2.3)	(0.5)	(0.3)	(0.1)	(3.3)
	平年	2.3	5.3	8.2	2.5	1.0	0.2	4.1
	平年比	多	並	少	やや多	多	やや少	並
オオトゲシラホシカメムシ	本年	0.0	0.2	0.4	0.2	0.3	0.0	0.2
	(前年)	(0.0)	(0.1)	(0.1)	(0.0)	(0.2)	(0.0)	(0.1)
	平年	0.1	0.2	0.9	0.5	0.5	0.1	0.4
	平年比	やや少	並	並	やや少	やや少	並	やや少

※ 表1 と同一のほ場、調査時期

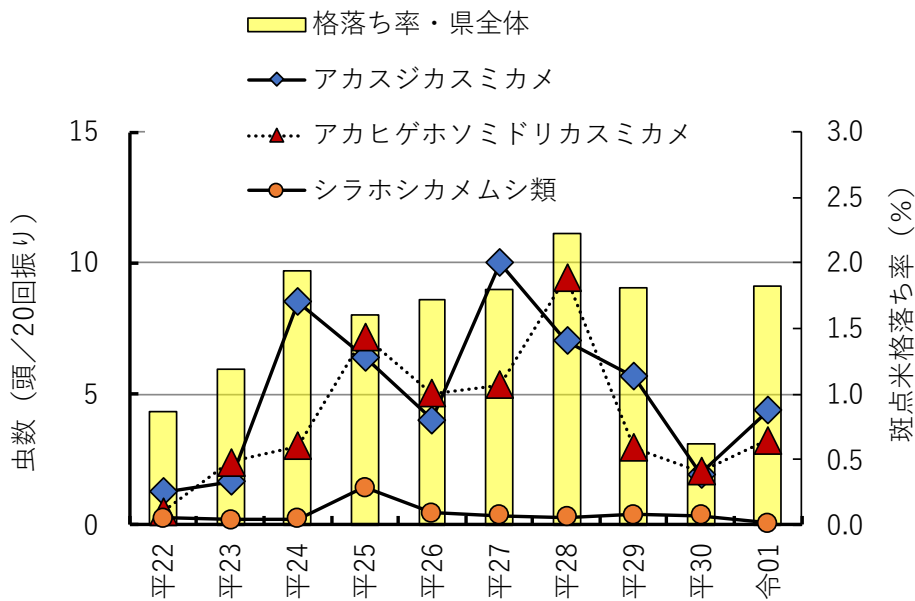


図 6月後半の畦畔すくい取り虫数と斑点米による格落ち率

5 防除上の注意事項

(1) 水田周辺の雑草管理

ア カスミカメムシ類2種は、メヒシバ、ナギナタガヤ、エノコログサ等の出穂したイネ科雑草に寄生し、増殖するので、これらの雑草が出穂する前に草刈りを行い、水田侵入前の発生量を抑制する。

イ イネ科雑草が出穂している畦畔、農道は、速やかに草刈りを実施する。防除実施時期までに雑草が繁茂するようなら再度草刈りを行う。

ウ 水稻の出穂期後もイネ科雑草が出穂・結実しないよう草刈りを継続する。

(2) 水田内雑草の除去

水田内雑草（ノビエ、イヌホタルイ等）の繁茂・結実は、カメムシ類、特にアカスジ

カスミカメの水田侵入・増殖を助長するので早めに除去する。

(3) 適期の薬剤防除の実施

ア 品種ごとの防除適期に合わせ、確実に薬剤防除する。出穂時期を確認し、防除適期を逸しないよう注意する。

イ 散布回数、時期は使用する防除薬剤の種類によって異なる。粉・液剤の1回散布の場合は出穂期3日後頃～7日後、2回散布の場合は出穂期の7日後と、さらにその7～10日後である（薬剤の種類に応じた散布回数の考え方は、令和2年度新潟県農作物病虫害雑草防除指針を参照）。

ウ 粒剤の散布適期は出穂期～出穂期7日後である。水深3cm程度の浅水で散布し、散布後は飽水管理を徹底する。散布日はできるだけ好天が予想される日を選び、多雨や低温、日照不足が予想される場合は散布を控える。

エ 共同防除実施地区での極早生品種など、出穂期が共同防除実施日より10日以上早いと予想される場合は、防除実施前の加害が懸念されるので、共同防除の7日前頃に追加防除する。追加防除では共同防除とは異なる系統の薬剤を使用する。

新潟県病虫害防除所業務課

電話：0258-35-0867

FAX：0258-35-7445

URL：www.pref.niigata.lg.jp/bojo

令和2年6月30日

関係機関・団体の長 様

新潟県病虫害防除所長

令和2年度新潟県病虫害発生予察情報・注意報第1号
(カメムシ類による斑点米の多発生に注意) について (送付)

このことについて、別紙のとおり送付しますので、当該害虫による被害の拡大防止を図る観点から、生産者に対して適切な防除指導をお願いします。

新潟県病虫害防除所業務課

電 話 : 0258-35-0867

F A X : 0258-35-7445

U R L : www.pref.niigata.lg.jp/bojo